

# 工事写真報告書

工事番号 平成 27 年度

工事名 S 様邸

工事箇所 屋根・外壁・その他塗装工事一式

工事住所 北九州市 門司区 春日町

工期 着手 平成 年 月 日

竣工 平成 年 月 日

工事施工者 ベストホーム株式会社



外観

---

---

---

---

---

---

---

---



外観

---

---

---

---

---

---

---

---



外観

---

---

---

---

---

---

---

---



外観

---

---

---

---

---

---

---

---



折半屋根

この部分は鉄、スチール素材になります。劣化するとサビが発生してきますので塗装が必要です。

---

---

---

---

---

---



折半屋根

対処方法

サビが発生しているうえに塗装をしてもすぐにサビが表面化してきますので、ケレン作業・サビ止め等の下地処理をおこない、塗装をしていく必要があります。

---

---



折半屋根

同上



パラペット・帯



パラペット・帯

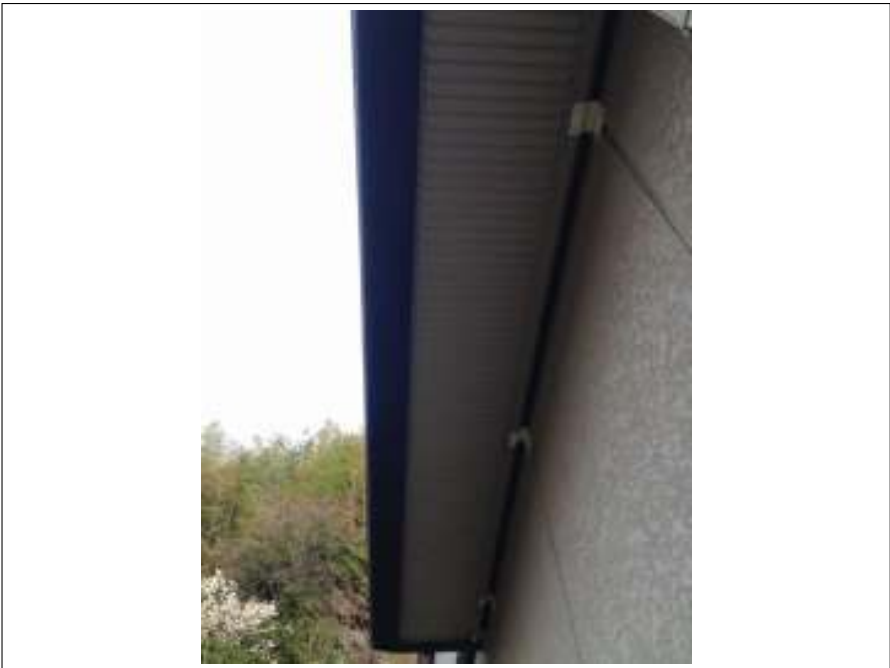
表面の劣化・旧塗膜の剥離が見られます。

この部分はケレン作業や等で下地処理・専用下塗をおこない塗装をしていきます。



パラペット・帯

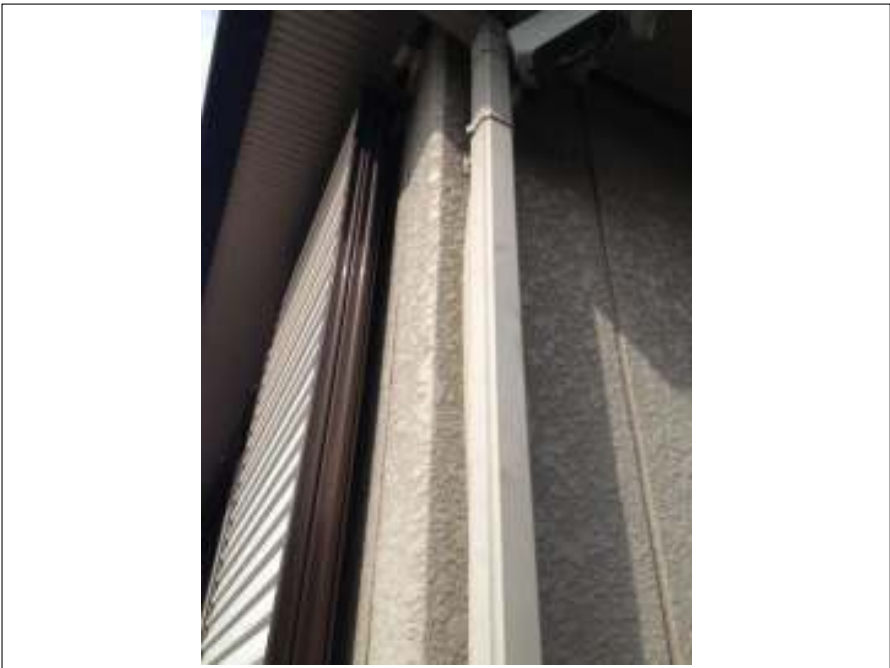
同上



軒天

経年劣化しております。

この部分は通気性の良い軒天専用の  
塗装をしていきます。



樋

こちらは塩ビ素材になります。

劣化すると割れが生じたりするこ  
とがありますので、塩ビ専用の下塗り  
をおこない塗装をしていきます。



**樋**

旧塗膜が剥離をおこしています。  
このまま塗装をおこなっても旧塗膜から剥がれてしまいますので、密着の悪い塗膜はケレン作業で除去し、専用下塗・塗装をおこないます。  
剥離の原因としては、下地処理ミス、下塗をおこなっていないなどが考えられます。



**樋**

前回の塗装の部分で塗り斑が見られます。  
考えられる可能性としては、施工ミス・希釈しすぎ・チェックミスが考えられます。



**ダクトカバー**

こちらも塩ビ素材になります。  
前回塗装をおこなっていない所がありますが、この部分も塗装をおこないます。



**ダクトカバー**

---

同上

またところどころ塗装のダレが見られます。

塗料の希釈が多すぎると、塗料が水っぽくなりダレてしまいますので、規定量の希釈をしての塗装が必要です。

---

---



**ダクトカバー**

---

前回の塗装の部分で塗り斑が見られます。

考えられる可能性としては、施工ミス・希釈ミス・チェックミスが考えられます。

---

---

---



**換気フード**

---

同上

---

---

---

---

---

---

---



雨戸

この部分は鉄、スチール素材になります。劣化するとサビが発生してきますので塗装が必要です。



雨戸

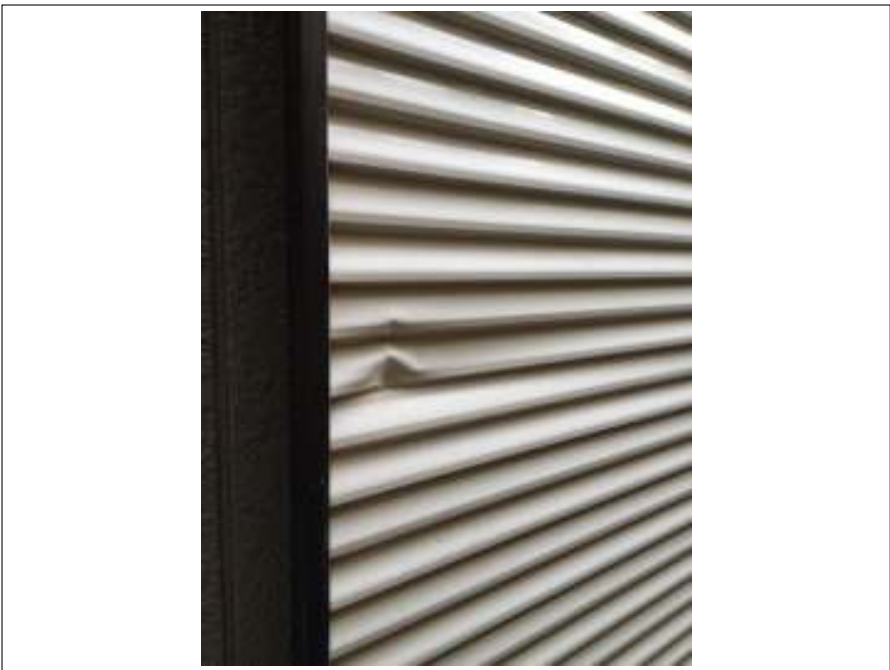
対処方法

サビが発生しているうえに塗装をしてもすぐにサビが表面化してきますので、ケレン作業・サビ止め等の下地処理をおこない、塗装をしていく必要があります。



雨戸

前回の塗り斑が劣化とともに表面化しています。



雨戸

現状凹んでいる部分があります。  
この部分は裏から可能であればできる限り形を整え、塗装をおこないま  
す。

---

---

---

---



玄関ドア

同上

---

---

---

---

---

---



小庇

同上

---

---

---

---

---

---



小庇

同上



換気フード

同上



玄関 庇

同上



### 玄関 庇

剥離が見られます。

この部分はアルミ素材になり、塗装をおこなうと剥がれてくる部分になりますので、アルミ・ステンレス部分は基本的には施工をしてはいけません。



### 基礎クラック

アルカリ性のコンクリートは空気中の二酸化炭素や酸性雨と結合することによって徐々に中性化されます。

中性化されたコンクリートは表面にヒビが入るだけでなく、内部の鉄筋の腐食や膨張につながり構造物の性能低下につながりますので、シーリング等で補修をおこないます。



### チョーキング現象

紫外線などにより塗膜の表面が劣化し、チョークの粉状のような状態になっています。

この状態になると表面から水や湿気を吸い込んでしまい、外壁や中の躯体の痛みにつながりますので、早めの塗装をお勧めします。



### 外壁 ピンホール

全体的に見られます。  
前回の塗装施工時に、下塗不足もしくは施工時に空気を巻き込んでしまい、乾燥過程でその空気が抜ける際に出来る穴のことです。  
この現象も、防水効果を損なうことになりしますので、下地処理下塗りをしっかりおこなう必要があります。



### 外壁 目地部

旧塗膜が剥離をおこなっています。  
このまま塗装をおこなっても旧塗膜から剥がれてしまいますので、密着の悪い塗膜はケレン作業で除去し、専用下塗・塗装をおこないます。  
剥離の原因としては、下地処理ミス、下塗をおこなっていないなどが考えられます。



### 外壁 目地部

同上

---

---

---

---

---

---

---

---



**外壁 目地部**

塗り斑が見られます。

考えられる可能性としては、施工ミス(刷毛どり)・希釈ミス・チェックミスが考えられます。



**外壁 目地部**

同上

また塗装のダレも見られます。



**外壁 目地部**

同上



**基礎カビ発生部**

カビの発生が見られます。  
カビの上にくら良い塗装をして  
も、カビの根が残っている以上塗膜  
を突き破って表面化してきますの  
で、カビの根を抑える必要がありま  
す。



**外壁カビ発生部**

対処方法  
いくら高圧洗浄をかけても、カビの  
根が残ってしまいますので、カビの  
根を殺す防カビ下塗りをおこない、  
下塗り・上塗り二回の三層四工程を  
おこないます。

作成者：戸高 勇樹

劣化診断士

認定番号：13100230

